

## 令和6年度 特色ある道德教育推進校 鎌ヶ谷市立西部小学校

### 研究主題

自他を認め合い、主体的に生きる力を育成する道德教育の推進  
～全校「みとめあい集会」の実施と道德科における個別最適な学び・協働的な学びの実現を通して～

### 取組1 「全校で『みとめあい集会』を実施し、自己肯定感の醸成を図る」

全校規模で「みとめあい集会」を実施し、子どもたちが互いの存在や価値を認め合う場を提供することで、自己肯定感を醸成する。この集会は、子どもたちが仲間の承認を通じて自分の価値を感じ、自信を育む場であり、他者を尊重する姿勢を育むことで道徳的な資質の基盤を強化し、集団の中での相互理解を深める場ともなる。

児童会が中心となり、「十人十色～ちがいをみとめあう西部っ子」という西部小学校のあい言葉を作成した。

#### 内容

- ・特別支援学級や通級教室について、「どのような場所なのか」や「どんな学習を行っているのか」を知る。
- ・児童会主催、全校で「多様性への理解」についてのスローガンや目標を考える。
- ・学級・学年での、取り組みについて発表し、全体で振り返りを行う。
- ・見た目では分からないが助けを必要としている人がいることを知る。
- ・クイズ等を通して、見た目ではわかりにくいが見え方や聞こえ方で不自由を感じている人がいることを知る。また、西部小学校にも話し方を学ぶ場として、「ことばの教室」があることを理解した。
- ・みんな違っていることが当たり前ということを考える。クラスの友達が同じ顔で同じ好き嫌いだったら、どうか?」ということを学校全体で考えた。同じ顔のお面をかぶった一年生の登場に、一同騒然としていたが、あらためて「みんなちがって、みんないい」を感じる良い機会となった。

### 取組2 道德科の授業におけるICTの活用を通して、 個別最適な学びと協働的な学びを実現する

道德科の授業においては、個別最適な学びと協働的な学びを実現するために、ICTを積極的に活用する。ICTを活用することで、個々の学びに応じたペースで学習が進められるほか、デジタル教材や映像資料を通じて様々な視点に触れることが可能である。こうした学び方は協働的なディスカッションを促進し、互いの意見に触れる場面が増え、他者を理解する柔軟性や共感の心が育まれる。また、ICTを用いたグループ活動によって、子どもたちが自己の意見を表現しやすくなり、他者の意見を尊重する姿勢が培われることが期待される。

このように、本校では道德教育を通じて子どもたちが道徳的価値を「自分ごと」として主体的に深め、実生活に活かせる学びの場の在り方を研究する。

#### (1) 個別最適な学びのためのICT活用

児童一人ひとりが道徳的価値についてより深く考えられるよう、ICTを活用した学習支援

を行った。Chromebookやデジタル教材は内省の機会を作り出し、各自が自分の考えを整理し、深めることにつながった。

### 例1) Googleフォームを利用した価値項目に関する質問への回答と結果の即時確認

価値項目や教材に関する質問をGoogleフォームで行うことで、回答後、クラス全体の集計結果や自分の意見がどのように位置づけられるかをすぐに確認でき、自分の考えを他者の意見と比較しながらさらに考察を深めることができる。

### 例2) 大型提示装置による教材文のスライドと字幕の表示

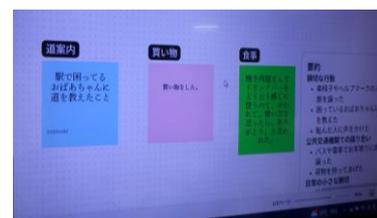
教材文を大型提示装置にスライドと字幕として映し出すことで、視覚的なサポートを提供する。これにより、子どもたちは学習内容をより理解しやすくなり、教材の内容を確実に把握できるようになる。

## (2) 協働的な学びのためのICT活用

他者と意見を交換し、異なる視点から物事を考えられるよう、ICTを活用して協働的な学びを支援する。意見交換の場や共同作業ツールを通じて、グループで話し合いやディスカッションを行い、多様な視点を共有する機会を提供する。これにより、子どもたちは他者の意見を尊重し、協働して道徳的価値を深く考える力を養う。

### 例1) Canvaのホワイトボード機能

Canvaのホワイトボード機能を活用し、子どもたちが同じ画面上で自由に意見やアイデアを書き込み、視覚的に整理することができる。また、生成AIによる意見の自動分類と要約機能も利用することで、全体の意見の傾向や共通点が把握しやすくなり、意見交換や共通理解がさらにスムーズになる。



### 例2) SKYMENU Cloudのポジショニング機能

SKYMENU Cloudのポジショニング機能を使用して、子どもたちは自分の意見を全体の中で視覚的に位置づけることができる。この機能により、自分の考えが他者とどう異なるか、またはどのように共通しているかがわかりやすくなるため、多様な意見に触れながら道徳的価値の多角的な考察を深めることができる。

#### 主な成果と課題

○SKYMENU Cloudの発表ノートを用いて、自分が考えたことを交流することで、自席から離れた人の考えを知ることができ、より多面的多角的に考えることができた。

○ワークシートに書いて写真をアップロードすることで、学びを残すことができる。児童が振り返り際や、教師が評価する際にも有効である。

○授業では、SKYMENU cloudのポジショニング機能を使用することで、児童は発表しなかった児童の意見や普段発表しない児童の考えを見ることができていた。また、教師はポジショニングの機能にある「軌跡」を活用し、児童の意見の軌跡をたどることで、考えが変わった児童を視覚的に見つけることができ、その児童に意見を聞くことができた。

●写真のアップロード数が多い児童は、時間がかかってしまった。時間を優先すると枚数を制限することが望ましいが、子どもの思考を止めてしまうことにもつながってしまう。

●SKYMENU Cloudで他者の考えを閲覧する際に、「自分の考えと似ているものや自分とは考えが違うものを探しましょう。」など、的確な指示を出さないと、流し見をして、考えの広がりにつながりにくいように感じた。

●ワークシートとICTでの提出を選ばせることで個別最適化の学習につながっていくと感じた。

## 授業実践事例

第6学年2組

道徳科学習指導案

- 1 主題名 誠実とは  
 内容項目 A 正直、誠実  
 千葉県道徳教育推進のための基本的な方針：かけがえのない自分  
 教材名 「手品師」(出典：「新しい道徳」東京書籍)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本時は、小学校第5学年及び第6学年の内容項目「誠実に、明るい心で生活すること。」に関係するものである。内容項目は、中学校の内容項目[自主、自律、自由と責任]の「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」につながっていく。「正直、誠実」についての高学年に対する指導では、一人一人の誠実な生き方を大切にしながら、みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが大切である。また、自分自身に誠実に生きようとする気持ちが外に向けても発揮されるように配慮する必要がある。一方で、よくないことと知りつつも、周囲の考えに流されることや傍観者として過ごしてしまうことも多くある。その中で、自分の考えや信念に誇りをもって決断できるように指導していく必要がある。

「誠実」とは何かを考え、自分の誠実な心の在り方を追求し、行動していく実践意欲を育てることをねらいとしていく。自分の損得を第一に考えて行動する児童や、仲の良い友達には誠実にふるまえるが、そうでもない友達には曖昧な態度をとるなど人を選んで行動する姿も見受けられる。友達とのかかわりの中で、迷うことや悩むこともたくさんある。相手のことや自分自身のこと、多種多様な価値観があるからこそ迷うことである。それらの価値観に対して、真剣に向き合っているからこそ、迷いはより深くなることもある。その迷いこそが「誠実」であり、そこで見つけた自分自身の心の在り方こそが誠実な答えなのではないかと考える。

本教材を通して、目先の利害にとらわれたり人を選んだりせず、自分の良心に従って、正直・誠実に生きることのすばらしさに気付き、明るい心で生活することの大切さを深く考えさせたい。

(2) 児童の実態(児童数40名 男子20名 女子20名)

本学級の児童は、全体的に明るく活発な児童多い。また、児童数が多いため、たくさんの人と関わる環境である。お互いにわからないところを教え合うなど人に聞くことや人から教わることに抵抗感が少ないところが良いところである。学習の中では、一部の児童は自分の意見を発表することに不安を感じる場面が見られるため、発言しやすい環境作りが求められる。友だち同士の仲が良く、協力して課題に取り組む姿勢が育まれているが、約束を守ることや責任感についての意識は児童によってばらつきがある。特に、約束を破ることで友だちとの関係に支障が出ることもあり、その際に相手の気持ちを考えずに行動してしまう児童も見受けられる。

(3) 教材について

本教材は、主人公である手品師は、友人から「大きな劇場で、はなやかに手品をする」というチャンスをもたらしたが、手品師は小さな男の子の前でその日に手品を披露することを約束していた。手品師が男の子との約束を守ることや男の子を想う気持ちも、大劇場で夢を叶えることもどれも偽りのない気持ちだからこそ迷っている。その手品師の心の揺れを通して誠実とは何かを考える教材である。道徳的価値に迫っていくために、特に次のような場面を取り上げる。

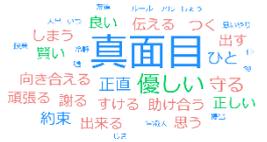
3 本時の指導

(1) ねらい

「誠実」とは何かを考え、自分なりの誠実な心の在り方を追求し、行動していく道徳的実践意欲を育てる。

(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される児童生徒の反応	支援の手だてと留意点	備考

導入	5分	1 「誠実」についてのアンケート結果を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>誠実の既存のイメージを明確にさせる。</li> <li>教材は、事前に読ませておく。</li> </ul>	アンケート
	展開	6分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">誠実な人とはどのような人だろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>手品師をデジタル教科書で読む。</li> <li>手品師の状況を確認する。</li> </ul>	
		5分	3 教材「手品師」を読んで考え話し合う。手品師の状況を確認する。 ○迷いに迷っている手品師はどんなことに迷っているのだろうか。 大劇場へ行くか、男の子のところへ行くか。	
	終末	7分	○自分ならどちらを選びますか。理由も考えてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>大劇場へ行く。理由は、自分の夢だから。</li> <li>男の子の方へ行く。理由は、約束したから。</li> </ul>	自分ならどちらを選ぶか口頭で発表させる。 多種多様な意見を出すことで価値観に違いがあることを確認する。
1分		○手品師は誠実なのだろうか。	誠実か誠実ではないかをポジショニングで児童一人一人意見を書かせる。理由をしっかりと書くよう伝える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「生きる上で自分が大切だと思うこと。」「これで自分は後悔しない。」「自分の心・友達の手品師の心・男の子の心をそれぞれ大切にしたい答えがこれだ。」という、それぞれが考える「誠実」であることに気づかせる。</li> <li>どうしてそう思うかの理由を聞く。</li> <li>誠実さとは何かにつなげていく。</li> </ul>	
2分		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもとの約束を守ったから誠実。</li> <li>自分の夢には誠実ではない。</li> </ul>		
	5分	○手品師は自分の選択をどう思っているのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>男の子との約束を守って後悔をしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手品師を通してわかったことや気付いたことをワークシートに書く。</li> </ul>	
	5分	4 誠実な人とはどのような人だろうか <ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身の心に正直にまっすぐに生きる人。</li> <li>どちらかを選ぶのに迷っても、自分の言葉で自分の心をしっかり伝え、後悔しないで生きる人。</li> <li>相手のことを考えながら、自分の心にウソをつかない人。</li> </ul>		

(3) 評価の視点

「誠実」について多面的・多角的に考え、自分なりの誠実な心の在り方を追求し、今後に生かそうとしている。

(4) 板書計画

